

# みずなら

《教育目標》 知性を磨き 心豊かに 逞しく  
《校訓》 自主 協調 実践  
《目指す生徒像》 自ら感じ 考え 行動する生徒  
《発行責任者》 校長 高橋 秀明

◆ 学校のブログもご覧下さい。 <http://b-school.jp/blog/skamisyn/index.php> ◆

## ピンチをチャンスに変える

校長 高橋 秀明

### 「ピンチの裏側」

神様は決して  
ピンチだけをお与えに  
ならない

ピンチの裏側に必ず  
ピンチと同じ大きさのチャンスを  
用意して下さっている

グチをこぼしたり、ヤケを起こすと  
チャンスをみつける目がくもり  
ピンチを切り抜けるエネルギーさえ失せてしまう

ピンチはチャンス  
どっしりかまえて  
ピンチの裏側に用意されている  
チャンスを見つけよう

上の詩は、福岡県で詩人として創作活動を続けている山本良樹さんの「ピンチの裏側」という詩です。第89回全国高等学校野球選手権大会で優勝した佐賀県立佐賀北高校野球部の部訓になっていたことから、一躍有名になったものです。

9月1日の全校集会で「9月には、全員が共通して取り組む大きな行事が2つあるので、それに向けて全力を尽くして欲しい。」と話をさせてもらいました。一つは、中間テストに向けての取組、もう一つは学校祭に向けた準備。これに、新人戦などに向けた部活動等や3年生は進路決定につながる学力テスト等が加わるので、9月は忙しく乗り越えるのが「難しい月」になるとも伝えさせてもらいました。

また「難しい月」という表現から、「難」の漢字を取り上げ、次のような話もさせてもらいました。

みんなも知っての通り、「難」と言う漢字はあまり良い意味では使われていません。苦しんだり（苦難）、困ったり（困難）、災い（災難）を表す時に使われますが、できればこういった「難」は、ない方が良く思われます。「難」がないことを「無難（ぶなん）」と書きます。

「問題を無難に乗り切った」、「無難な人生を送った」

決して不幸では無いけれど、何故か平凡な生き方のような表現に聞こえてしまいます。逆に、「難」があることを、「有難い」（ありがたい）と昔の人は表しました。「難」が有れば乗り越えるために、知恵を使い自分自身を高められると考えたからです。

テストやいろいろな行事、みんなにとっては大変な取組になりますが、是非自分を成長させるために負けないように頑張っていきましょう。

いよいよ10月には、2大行事である「学校祭」が行われます。今、生徒達は学校祭の成功に向け一年間の中でも最も忙しく大変な「難」（ピンチ）に立ち向かう時期となりますが、ピンチを乗り越え、チャンスとさせる中で、成長した姿が見せられるようにサポートに当たっていきたいと思います。

◆▽● 町内大会へ2名選出 ～校内弁論大会～ ●△◆

18日(木)の午後より校内弁論大会を本校体育館にて開催しました。会場には上春別小学校の校長先生と5・6学年の皆さんや中学校の保護者の皆さん、学校評議員の方々等が参観に来られました。

弁士は各学級での発表会から選抜された7名の皆さんで、学級で発表してから原稿を手直したり、発表の仕方を工夫するなどの努力の跡がわかりました。学級での発表会も含めると、学年が上がるにつれて発表の仕方に上達が感じられたこと、1年生は題材が豊富で、社会に目を向けたものが多かったこと等が印象に残りました。

審査結果は次の通りです。最優秀の2名は11月22日(土)に開催される「第61回別海町少年弁論大会」に出場します。



【審査結果】

★最優秀賞：吉田真矢(1年)、白鳥綾菜(2年)

★優秀賞：向山玲奈(3年)

★優良賞：山桑朱莉、小島風太(以上1年)、  
阿部瑠那(2年)、宮城しずく(3年)

◆▽● 考えよう。使い方… ●△◆

校内で「メール・チャット・LINE等の利用状況」をアンケート調査しました。15名の回答のうち、「多い日に3時間以上」が6名、「少ない日に3時間以上」が3名いることがわかりました。

また、利用している生徒の感想には「勉強などやらなければいけないことを犠牲にして熱中してしまうことがある」との回答も6名、「次の日に疲れる」と答えた生徒もいました。

これを受けて、22日の全校集会で生徒に実態を知らせ、適切な利用について考える機会を持ちました。「自己管理が大事」とはいいますが、子どものために、大人の側で管理をしてあげることが重要です。子どもをネットに奪われないよう、ご家庭でのルール作りを強くお願いします。

◆▽● 学校祭へどうぞ! ●△◆

生徒会長 若木 優作

今年も生徒数が増え、益々迫力の増す学校祭。ダンスの振り付けを考えたり、劇の台本を作ったり、伝統の正統派バンドも然り。更に、新設置したステージ部門が新しい感動を創り上げます。あくびする暇もないジャンル多き演目の数々。これまでにない進化した学校祭を是非見に来て下さい。

◆▽● お願いします ●△◆

正面玄関に新しくゴムチップタイルが貼られました。ゴムチップタイルは車の重さには耐えられません。車が乗り上げることで、タイルが変形・破損することがありますので、玄関口への車の乗り入れはご遠慮下さいますようお願い致します。

10月の行事予定

日	曜	内 容	バス
1	水	職員会議	15:50
2	木	救命講習(2年)	15:50
3	金	委員会、中標津高体験入学	15:50
4	土	地区羽球新人戦、湖陵高説明会	
5	日	パイロットマラソン	
6	月	全校集会、家庭学習推進週間(13日迄)	15:50
7	火	地震出前講座(避難訓練)	15:50
8	水	3年学力テスト	15:50
9	木	白鳥号	15:50
10	金	委員会、バザー注文メ切	15:50
11	土	英検	
12	日	上春小学芸会	
13	月	体育の日	
14	火	生活習慣チェック(20日迄)	15:50
15	水	職員会議、北海道シェイクアウト	15:50
16	木	弁当の日	15:50
17	金		15:50
18	土		
19	日		
20	月	全校集会	15:50
21	火		15:50
22	水	研修日	15:50
23	木	総練習、白鳥号	15:50
24	金		14:35
25	土	学校祭	15:30
26	日		
27	月	振替休日、3年親子レク	
28	火	学校祭後片付け	15:50
29	水	英暗地区予選	15:50
30	木	A L T	15:50
31	金	委員会	15:50

# 平成26年度 全国学力学習状況調査の結果について

別海町立上春別中学校

4月22日(火)に、**3年生を対象**に行いました「学力・学習状況調査」の分析結果をお知らせいたします。学力及び学習状況を把握し、今後の学習に生かすための結果報告となりますので、以前にお子さんを通じて配布しました「個人票」とあわせて参照されるようお願い致します。

## 【国語】

基礎知識を問うA問題の本校平均正答率は、全国平均に比べてやや低い結果でした。全設問数32問中、半数近くの14項目が正答率で全国平均を上回りましたが、特定の漢字の読み書きや、「読むこと」の領域での落ち込みなどが浮き彫りとなりました。

応用力を問うB問題では、全国平均と同程度の結果を出すことができていましたが、「複数の資料から必要な情報を読み取る力」や、「収集した情報を利用して、事実や事象を相手にわかりやすく伝える力」、「根拠を明確にして自分の考えをまとめる能力」では、低い傾向が見られました。

## 【数学】

「数式」「図形」「関数」「資料の活用」等の基礎知識を問うA問題では、全国平均に比べるとほぼ同程度の正答率となり、全設問数36問中で、12項目が全国平均を上回る正答率となっています。しかし、「数と式」の領域では、「等式の性質と移項の関係の理解」、「単純な連立方程式の解答を求める設問」等で、正答率が低くなる傾向が見られました。また、図形では、「垂直二等分線の作図方法」、「円錐形の展開図から半径を読み取る設問」、「比例と反比例の性質の理解」、「数式からグラフを選択する設問」等で正答率が低くなる傾向が見られました。

応用力を問うB問題では、全国平均と比較してやや低い正答率となっています。特に「図形の性質を用いて、数学的に問題の解決方法を説明する問題」や、「事柄が成り立たない理由を例をあげて説明する問題」、「与えられた情報を適切に読み取り、回答を求める問題」では課題が見られる結果となりました。

## 【生徒質問紙】

生徒質問紙(74問)の中から見えてくる本校の特徴と課題点について  
<良い点>

- ・基本的な生活習慣等は身につけている。
- ・運動会等の行事には積極的に参加することができる。
- ・学校の出来事を家の人に話すことができる。
- ・生活の規範などをしっかり自分で判断し守ることができる。
- ・インターネットなど調べ学習で有効に活用することができる。
- ・テレビ、ゲーム、スマホなどの利用時間を制限しながら利用することができる。
- ・テスト等でわからないところがあっても諦めることなく最後まで取り組むことができる。

<課題点>

- ・自分の良さに関して自信の持てない面や、何事にも失敗を恐れなくて挑戦できる姿勢が弱い。
- ・自分の考えや意見を積極的に発表することについて、弱い面が見られる。
- ・1時間以上の家庭学習の習慣化がなかなか確立されていない。また、予習や復習などを取り入れる等、計画的な取組が弱い傾向にある。
- ・学校以外での創造性や読解力を高めるための読書習慣が身につけていない。
- ・悩み等を自分で抱え込んでしまう傾向が見られる。
- ・地域や社会で起こっている出来事に関する関心が低い傾向が見られる。
- ・自己有用感が低い傾向が見られる。
- ・学校での学習が、「将来に役立つ」と、いう意識が低い傾向が見られる。



学力の向上は、わかりやすい授業の構築と適切な生活リズムの中での家庭学習に尽きます。これまでの学力向上の取組を継続し、さらに研修の中で「課題をしっかりと把握させる」、「授業の中で本時のまとめをしっかりと行う」、「振り返りの場面を設ける」等に配慮し、よりよい授業を目指していきます。また、学校だけでは学力の向上は望めません。1年生は70分、2年生は80分、3年生は90分の家庭学習に向けて、子どもの生活リズムを見直すことを是非ともお願い致します。